



タック TACの家庭菜園教室



TAC（タック＝営農経済渉外）が家庭菜園を行う際のポイントや注意点などをじっくり分かりやすく解説いたします！

今が植えどき！たまねぎ栽培のポイント



【おいしい収穫に向けて準備を始めよう】

秋の風が心地よく感じられるこの季節、家庭菜園では「たまねぎの定植（苗の植え付け）」に最適な時期を迎えます。

たまねぎは寒さに強く、秋に苗を植えることで翌年の初夏に立派な球を収穫できる人気の野菜です。少しのコツを押さえれば、ご家庭の畑やプランターでも立派なたまねぎが育ちます。

【定植の適期】

足利市周辺では、11月中旬から12月上旬が定植の適期です。寒さが本格化する前に植え付けることで、冬の間に根をしっかりと張らせることができます。根が十分に育っていれば、春の生育が旺盛になり、玉もしっかり太ります。

あまり遅くなると根張りが不十分になり、寒さで苗が傷む原因になりますので、天候を見ながら早めの植え付けを心がけましょう。

【定植のポイント】

- ① **苗の準備**：葉が青々とし、根元が締まっている丈夫な苗を選びましょう。目安としては、苗の太さが鉛筆よりやや細め（6～8mm程度）、葉が3～4枚のものが理想です。太すぎる苗は冬越し中にとう立ちしやすく（花芽が付く）、細すぎる苗は寒さで枯れやすくなります。
- ② **植え付け場所**：たまねぎは日当たりと水はけの良い場所を好みます。連作障害を避けるため、同じ場所にたまねぎやネギ類を続けて植えないようにしましょう（少なくとも2～3年は間隔を空けると安心です）。

また、定植前に「苦土石灰」をまいて土の酸度を調整（pH6.0～6.5）し、完熟たい肥や化成肥料を施しておくといいでしょう。

- ③ **植え付け間隔と深さ**：苗と苗の間隔「約 10cm」、列と列の間隔「約 30cm」、植え付け深さ「根が隠れ、白い部分が軽く見える程度」がおすすめです。深植えすると生育が悪くなり、浅植えでは倒れやすくなります。指先で軽く土を押さえる程度で十分です。
- ④ **水やり**：植え付け直後は、たっぷりと水を与えて苗と土を密着させます。その後は過湿にならないよう注意し、土の表面が乾いたら軽く水を与える程度で構いません。過剰な水やりは根腐れの原因になります。

【冬の管理のコツ】

冬の寒さが厳しい時期は、苗が凍害を受けやすくなります。寒風や霜から根を守るために、敷わらやマルチングをして保温してあげましょう。特に霜柱で苗が浮き上がる「霜上がり」現象が起こりやすいので、浮いてしまった苗は早めに押さえておくのがポイントです。



マルチの保温効果で低温期でも地温を確保でき、土壌の乾燥防止や雑草の抑止効果などが期待できます。



【春に向けての追肥】

冬を越して2月下旬～3月頃、気温が上がり始めたら1回目の追肥を行いましょう。化成肥料を株元から少し離れた場所にまき、軽く土に混ぜ込みます。3月下旬～4月に2回目の追肥を行うと、球の太りが良くなります。

栽培に関する疑問など、お気軽にTAC（タック）までお問い合わせください。

お申込み・お問い合わせ

JA足利 営農振興課 ☎0284-22-4433(担当:TAC) 経済課 ☎0284-70-3071
または 北支店(経済)☎0284-43-8880 西支店(経済)☎0284-65-1139